

一九八四年十二月は北海道自然保護協会の創立二十周年にあたる。これを記念して本年の前半には、「北の自然を描写展」をはじめいくつかの行事がもたれたが、その一つとして朝日新聞北海道支社と共催で「豊かな北海道の自然をどのように有効に利用しつつ保全してゆくか」をテーマに、一般市民と小・中学生から「北海道の自然をどのように守り育てるか——二十一世紀への提言」と題する論文と作文を募集した。

出足ははじめやや足踏み状態であったが尻上りに好調となり、最終的には一般論文が六十五篇、作文は中学生が九十五篇、小学生が四八八篇の多数に及んだ。これは予想をはるかに越えた数字で、人びとの緑によせる想いの深さを知らされるとともに、その熱意に対して深く感謝したのである。とくに小学生の応募が多かったのは、先生方の自然教育への関心の深さを示すもので、熱心なご指導に敬意を表したい。

これらの応募論文はそれぞれの体験をふまえた発想により、ユニークな提案や発言を行ったものであり、子供たちの作文も小さな目から鋭い指摘をしているのがうかがわれる。

はじめ一九八五年が国連食糧農業機関(FAO)により「国際森林年」とされたことをふまえ、会誌を「森林特集」とする予定であったが、多数の応募論文と作文との発表に本号をあてることにした次第である。

一般論文、作文とも各人選作が一篇、佳作が三篇であるが、これらはいずれも全文を、また一般論文では選外佳作の八篇についてはその要旨を掲載した。

これらの論文や作文が、これからすぐれた北海道の自然を守り、さらにそれを育ててゆく上で貴重な寄与をすることを心から希望したい。

(会長)

八木健三

北海道の自然を守り育てるために

——二十一世紀への提言——

